

日本原子力学会 核燃料部会
令和2年度第二回運営小委員会議事録

日時 : 令和2年11月12日(木) 13:30~16:10 於 WEB会議(Webex)
出席者 : 宇埜部会長, 加藤副部会長, 大江副部会長, 阿部委員(15時30分まで),
宇田川様(天谷委員代理), 大堀委員, 尾家委員, 川西委員(15時45分まで),
草ヶ谷委員, 澤委員(15時まで), 篠原委員(15時まで), 竹野委員,
園田委員, 谷口委員, 原田委員, 松本委員, 柳沢委員, 渡部委員, 尾形様
(電中研), 三輪様(JAEA), 山内(記)

議事

1. 前回議事録等の確認(資料1-1,1-2)

山内から, 前回(令和二年度第一回)運営小委員会議事録を紹介した。また,
2020年7月以降に実施したメール審議等の実績について報告した。

2. 【審議】「福島第一原子力発電所廃炉に係る核分裂生成物挙動」研究専門委員会の設置について(資料9)

三輪様から, 「福島第一原子力発電所廃炉に係る核分裂生成物挙動」研究専門委員会の設置について説明し, 了承された。

- ・ 別紙1に記載の通り, 専門委員会の設置は, 関連部会の承認を得て企画委員会へ提出することが必要となっている。当該専門委員会は, 水化学部会の所掌であるが, 連携部会として, 核燃料部会からの多くのメンバーが委員として協力してもらっていることから, 事前に核燃料部会にも審議頂きたい。
- ・ ワーキンググループは3つあり, 各ワーキングは3回/年としている。各ワーキンググループの会議を含め, 細則(別紙1)に定める会議の開催頻度, 年4回以上の満足する計画である。

3. 令和2年度部会業務分担について(資料2)

山内から, 今年度および来年度の業務分担について, 以下の内容を説明し, 了承された。

- ① 牟田委員の退任に伴い, グループ1の業務分担を前倒しで担当すること
- ② GNF-J 草ヶ谷委員から松永委員への委員交代に関する部会全体審議の手続きについて, 11/16付で情報メール(資料2-2)にて行うこと

また, 牟田委員はプログラム編成委員でもあり, 次回の2021年の春の年会は黒崎委員が代理実施することとし, 2021年の秋の大会以降は別途調整することとしている旨, 紹介があった。

宇埜部会長より, 部会長を大学およびJAEAのみで分担することは困難になる可能性があり, 産業界側でも分担できるよう, 平成25年度の運営小委で承

認された内容を更新したほうが良い旨提案があり、次回以降の委員会で変更案を提示することとした。

4. 令和2年度収支実績と令和3年度予算案(資料3)

山内から、令和2年度の収支実績および令和3年度予算について紹介した。

夏期セミナーに関しては、3部会で調整し、Webでの開催が決定しているが、詳細は見積もれていない状況であり、学会事務局に確認し、支障がなければ、平成31年度の夏期セミナーの実績ベースで予算を作成することとした。

5. 核燃料部会・部会賞（学会講演賞，奨励賞）について（資料4）

園田委員から、2020年秋の大会学会講演賞の選考結果について報告され、以下の2名を受賞者とする事、および、2020年度の奨励賞の募集に用いるメールおよびホームページに載せる文案について承認された。

（選考結果）

- ・ 服部 亮平（東京都市大学）

講演題目：「高レベル放射性廃棄物作製時における不溶解残渣（白金族合金）の蒸発挙動に関する研究」

- ・ 田崎 雄大（JAEA）

講演題目「MOX燃料ペレットの微細組織の非均質性を考慮した核分裂生成物ガス放出モデルの検討」

表彰式に関しては、コロナ禍で全体会議がwebになることから省略し、書状および記念品を全体会議前に送付すると共に、全体会議で表彰者を紹介することとした。また、大江副部会長より、全体会議については、前回秋の大会実績から、学会開催期間中の昼休みでなく、開催期間前日等を含め、関係者が集まりやすい時間帯に設定することが可能との補足があった。

なお、園田委員から、採点結果の0基準の補正を行った評価を行うよう、引き継がれていたが、今回は実施していない旨、紹介があった。川西委員より、採点結果の0基準補正を実施してみた実績はあるが、採点の信頼性が揺らぐことから、0基準補正を行った結果を最終判断に使用しないことを過去に決定した旨の補足があった。

6. 核燃料部会 HP の部会賞（学会講演賞，奨励賞）に係る変更案について（資料5）

原田委員から、核燃料部会 HP の部会賞（学会講演賞，奨励賞）の表示方法に関する変更案が提示され、了承された。

変更案については、「？」等の記載を削除した掲載版を、庶務幹事を經由し、HP管理者に依頼することとなった。

7. 企画小委員会の概要について（資料6）

加藤副部会長から、10月29日に開催された企画小委員会の議事録の紹介が

あった。

ポジションステートメントの 2020 秋の大会でのポスターセッションに関しては、学生のポスターセッションと重なったこと、および、当該サイトに入りにくかったことから、来訪者が 1 名になってしまった。次回以降も実施する場合は、時間帯の設定や、当該サイトへの入りやすくする、認知度を上げる等の工夫が必要と思われる。

日本原子力学会誌の連載講座については、第 1 回、第 2 回の LWR 燃料が学会事務局コメント対応中、第 3 回の MOX 燃料が運営小委コメント対応中の状況である。

8. 2021 年春の年会での企画セッションについて(資料 7)

園田委員より、2021 年春の年会の企画セッションについて、原子力学会誌連載講座を取り纏めた「多様な原子燃料の概念と基礎設計」が提案され、了承された。

なお、軽水炉燃料に関しても、短時間で紹介することとなった。また、軽水炉燃料の講演者については、未定であることから、11 月 16 日の学会事務局への提出時は、仮設定で宇埜部会長とさせていただくこととした。

9. 令和 3 年度 3 部会合同夏期セミナーの開催について (資料 8)

渡部委員より、令和 3 年度の 3 部会合同夏期セミナーについて、進捗が紹介された。3 部会合同で開催すること、リモートで開催すること、および令和 3 年 8 月上旬に開催することについて、反対意見はなかった。

10. 核燃料部会報No.56 について (資料 10)

柳沢委員より、核燃料部会報 No.56 の進捗について紹介があった。巻頭言、国際会議紹介、国際交流ニュース等、執筆者の提案が欲しい旨、依頼があった。

渡部委員より、国際交流ニュースに関しては、コロナ禍でハルデン炉への派遣ができていないが、春先までに派遣できれば、執筆者の提案は可能との補足があった。

なお、部会報の締め切りは、令和 3 年 4 月末においている。

11. TWGFPT(燃料の性能と技術に関するワーキンググループ) 報告 (資料 11)

尾形様より、TWGFPT(燃料の性能と技術に関するワーキンググループ) 報告があった。当該報告に関して、部会報への寄稿は可能との補足があった。

12. その他

(1) 部会等主催の教育的プログラムに関する情報提供のお願い(資料 12)

大江副部長より、部会等主催の教育的プログラムに関する情報提供のお願いについて、紹介があった。

(2)次回運営小委員会について

次回の運営小委員会は，令和3年2月22日13時30分から，開催することとした。

以 上